

令和元年度 卒業式 式辞

今年は雪もほとんど降らなかった冬にも関わらず、この地は厳しい寒さの日も少なくなかったところですが、日差しには春の気配が感じられ、キャンパスには例年より早く花や緑から春の息吹がもたらされています。

本日、ここに岐阜県立国際園芸アカデミーを卒業していく二十三名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

ご列席の保護者の方々にも、心よりお祝いを申しあげます。

また、このたびは新型コロナウイルスの大流行が懸念され、感染防止のため本校としても式そのものの規模縮小と時間短縮のため、来賓のご臨席も今年のご遠慮を頂いております。しかしながら卒業生への祝福の気持ちには変わることなく届いておりますのでこの場をお借りしまして改めて厚く御礼申しあげます。

さて卒業生の皆さんは、奇しくも私と時を同じくして二年前に花と緑の知識と技能を身に付けることを目標に、本校に入学してこられました。

今、今日のこのよき日を迎えるにあたって、このキャンパスで過ごした様々な思い出が頭の中をよぎっていることと思います。

ともに学んだ友人、花と緑があふれ自然の中にあるキャンパスで過ごした日々、私とも何気ないくだらない話をした時間なども、皆さんの人生にとってかけがいのないものです。そのかけがいのない経験や人と人とのつながりがこれからの人生にとって大切な財産となることを願っています。

卒業生の皆さんがこれから進む花き園芸・造園緑化においては、土を作り、種を播き、水や肥料をやることによって、花が咲き緑も育ち、その花や緑を使って人々に感動を与える技術を施し、求められるニーズに対応できる製品や施設に整えていきます。

昨年もお話をさせていただきましたが、土も種も水も肥料もそれだけでは、『資源』のままです。資源を『資産』に換えていくために必要なデザインワークともいべき能力、技能、技術をさらに身に付けて磨いていくことが求められています。その基礎となるべきものは園芸アカデミーでの2年間で「きっかけ」は与えられましたので、今後は一つ一つを追求していただく下さい。

草花を作ったり、花束を作ったり、庭を作ったりすることが、これからのあなた方に真に求められているのではありません。モノを作るのはあくまでも手段にしかすぎません。

花の先にある「美しい、綺麗、うれしい」と思う人の気持と幸せな心を作るんです。庭づくりも樹木を植えて石を据え、剪定・刈込をすることは同じく手段にしかすぎません。景色の先にある「癒され、なごむ」人の気持ちと穏やかな心を作るんです。仕事も人もどうか目に見えるものだけに捉われることなく、目に見えないものに思いと心を馳せてください。

最後にあたり、ここにめでたく皆さんが卒業を迎えることができるのは、日ごろの努力の賜物であるのはもちろんですが、支えていただけたご家族や関係者のお陰でもあることも伝えておきたいと思います。その感謝の気持ちを岩に刻む思いでその恩に報いていく決意を、これからの人生において忘れないようお願いします。

以上、皆さんの将来に幸多きことを祈って、はなむけの言葉とします。

令和二年三月三日

岐阜県立国際園芸アカデミー 学長

今西 良共